

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：34416
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2016～2023
課題番号：16K02615
研究課題名(和文) アジアの薬草メディスンマンにおける医療表象文化と神話・歌謡文学の発生理論の研究

研究課題名(英文) A Study on the Medical Representational Culture of Asian Medicine Men and the Theory of the Emergence of Myth and Song Literature

研究代表者
毛利 美穂 (Mohri, Miho)

関西大学・東西学術研究所・非常勤研究員

研究者番号：70556026
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、従来の文学研究に、人類学、考古学、医学、薬学等の知見を重ね合わせながら、新たなテキスト解釈の方法論を目指した「医療人文学」を提唱するものである。具体的には、神話・歌謡文学の生成において密接な関わりを持つメディスンマン(本草医、Herbal Man)の言説に対する実効的側面について分類・整理することで、神話・文学の生成における彼らの重要な役割とその視点から得られる新たな医療人文学としての文学生成理論の構築を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の学術的意義は、文学研究における新たな理論的枠組みの提出である。医療人文学は、人文学系アプローチと医学・薬学・生物学・生命科学系アプローチのクロスオーバー的新領域研究の実現を目指すものであり、文学研究に新たな方向性を提示することができる。また、研究成果の社会的意義は、文学と医療の密接な関係性を追究することで可能となる、現代医療領域への還元である。その必要性は、2020年以降の新型コロナウイルス感染症の影響によって明らかとなっている。

研究成果の概要(英文)：This study proposes "medical humanities," aiming to develop a new methodology for textual interpretation. This methodology integrates insights from anthropology, archaeology, medicine, and pharmacology with traditional literary studies. Specifically, we will classify and organize the impactful aspects of the discourses of Medicine Men (including herbal doctors and Herbal Men), who are closely involved in myth and song literature creation. Our aim is to construct a theory of literature generation within this new framework of medical humanities, drawing from their significant role in myth and literature creation.

研究分野：人文学

キーワード：医療人文学 日本文学 比較文学 医史学 薬学 生命科学 ナノライフサイエンス

1. 研究開始当初の背景

本研究開始当初の背景として、文学研究をとりまく環境が、他分野からの関心を集めつつも、分野横断型的手法をふまえたテキスト解釈の確立までは至っていないことが挙げられる。他分野からの関心として、例えば、精神医学や美術史学、防災学から文学作品をとらえることが挙げられる。また、美濃部重克らは、精神医学、文化人類学、日本文学という異なる専門領域のメンバーで構成された共同研究として、文献学的研究をもって医療の問題に取り組む「虫」研究をまとめた。しかし、文学研究の視座から考えると、分野横断型の研究手法をふまえてテキストを新たに読み解くことは重要なミッションであるといえる。

同時に、現代医療の世界では、薬害や副作用など西洋医療（対症療法）の限界を抱え、天然のハーブ治療を取り入れたアジア医療（予防医療）の再評価が行われていた。その社会的背景のもと、美濃部らによる「虫」研究が、西洋医療の限界を東洋医療で打開できるか否かを模索する医療関係者の注目を浴びたことや、2015年に中国の伝統医薬から画期的なマラリア新薬を生み出したことによりノーベル生理学・医学賞を受賞した屠呦呦の存在は、本研究メンバーによる文学研究の医療分野への貢献について具体的なビジョンを与えることになったのである。

※「虫」研究では、明治の近代化によって非科学的とされた「虫」観を通して、人の身体と精神をどう見るかという「心身観」の解明を試みており、現代の日本人が抱いている心身観が、近代医学の心身二元的な単層の心身観だけではなく、かつては「虫」観を育んだ「五臓思想」的心身観を基底に含む複雑な重層構造をなしていることを示した。（長谷川雅雄、辻本裕成、ペトロ・クネヒト、美濃部重克、『「腹の虫」の研究』、名古屋大学出版会、2012）

2. 研究の目的

本研究は、研究代表者の毛利による道教医療思想を基底とする本草学の研究を進める形で、文学と医療の密接な関係について、文学研究を軸とし、医療表象文化の実効的側面についての検討を加えるという分野横断型の「医療人文学」の研究手法を確立することを目的としている。

「医療人文学」は、人文学系アプローチと医学・薬学・生物学・生命科学系からのアプローチのクロスオーバー新領域研究の実現を目指し、例えば、人文学系テキストにみえる医療表象について、医学・薬学・生物学・生命科学系アプローチによる実効的側面を提示しながら、テキスト解釈において新知見を提示する。

加えて、メディスンマンの医療知識とその伝承の実態を明らかにすることで、「医療人文学」は社会的要請をふまえた研究として、文学研究のみならず、新たな領域融合的境界分野の創生を提示できると考えた。

なお、本研究が医療に着目したのは、人間の欲求の根幹が「医療」にあると考えるからである。歴史書を含め、口承で伝えられてきた歌謡や神話なども、文字として記録された背景には、記録されるだけの意味があったと考えることができる。それは、テキストに限らず、絵画や音楽、彫刻などの表象文化が生まれた要因を探ると、例えばラスコー洞窟の壁画が、クロマニオン人による天体学的記録という明確な意図があったとされているのと同じように、テキストもまた、先人たちの意図的な行為の結果であるからだ。つまり、テキストとは、ある人物、ある時代の思惑をふまえて、後世に残すために編修された「物語」であり、人間が生きていくための知識の集大成といえる。そして、後世に残したい知識とは何か、と考えたとき、人間の営みに密接かつ追求されてきた「医療」に着目した。このことは、『古事記』や『日本書紀』、『万葉集』などの上代文学テキストに散見される道教思想の存在を明らかにしたことがきっかけであり、道教思想は人間の営みを支え、さらに不老不死を希求するものであったからである。

神話・文学の生成に関しては、文学、文化人類学、宗教学、考古学などの学術的蓄積を基礎に、メディスンマンに関する実態調査の結果を加えることで、文学と医療の密接な関係について、メディスンマンによる医療行為が、その普遍化と継承過程において、医療行為の要素が伝承の中にちりばめられて神話的特徴を兼ね備え、ウタやマツリとして現在に残っていく、そしてまた新たな「神話的芸術」として創造されるという、よりリアリティのある理論的枠組みを提出できると考えている。

※メディスンマンについて、民族学では、シャーマン、呪医などの用語をもって、さまざまな社会の宗教生活における原始的要素を象徴する存在を指すが、本研究では、病の原因を突き止めて除去するために、本草知識などをもって医療行為や関連儀礼に従事する者を「メディスンマン」と定義する。

3. 研究の方法

(1) 医書の整理・分析

テキスト（主に上代）の編纂者・筆者である当時の知識人の医学的知識を確認するため、日本最古の漢籍の分類目録『日本国見在書目録』（891 頃）や格式（律令の施行細則）である『延喜

式』(927)を参考に、『新修本草』(659)や日本に現存する最古の医学書『医心方』(984)などの医書の他、収集した江戸期の医学書(「済民記」「上池秘録」「神仙解毒万病円服用之書」「訓蒙図彙」「大和本草」「医事或問」「薬徴」などの和本)の整理・分析をする。

(2) メディシンマンの調査

メディシンマンの言説を分析・整理するため、その実態についてインタビューを行う。メディシンマンの対象は、沖縄のシャーマン(ノロ、ユタ、カンカカリヤなど)やカンダリーリ中の女性、また、フィリピンの呪医アルブラリオである。同時に、彼らの家族や集落の取りまとめ役の他、彼らに救いを求める者にも適宜インタビューを行う。

(3) 医学、薬学、生物学、生命科学系アプローチの導入

薬草調査に加え、メディシンマンによる治療が人体に与える影響について、主にニューロサイエンスからの知見の確認・整理を行う。

(4) 医療からみるテキスト解釈の実践

上記(1)～(3)の成果をもとに、テキスト解釈を行う。

(5) 「医療人文学」の提唱・普及

欧米の Medical Humanities の実際を確認することで、本研究で提唱する「医療人文学」との差を明確にし、その独自性を示す。そして、「医療人文学」の考え方や研究手法について、国内外のカンファレンスやシンポジウムなどにおいて積極的に広める。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

文学研究として、テキスト解釈に落とし込むことは重要である。本研究では、『古事記』『日本書紀』『源氏物語』などの神話や物語文学、そして『万葉集』『おもしろさうし』『亭子院女郎花合』などの歌謡文学に描かれた医療表象(医療行為や本草)に注目することで、医療人文学という新たな分析から、その神話的歌謡的「薬理」を明らかにした。このことにより、従来のテキストクリティック、例えば、鎮魂による皇子の復活の物語論や他界・異界としての黄泉国神話論などを乗り越える試みとして、新たなテキスト解釈を提示することができた。この、テキスト(文学)における医療表象の「薬理」を追究する手法を獲得することで、医療人文学的文学理論への構想を着実に推進する基盤はできあがった。

また、テキストを解釈するための新たな研究アプローチとして、「文化的フレーム」という視点を提示した。「フレーム」とは、ある対象を理解するときに、理解するときのアプローチの仕方・考え方であり、「文化的フレーム」とは、人間の、文化的文脈上にのみ存在するフレームを指す。特に、「場」と「文化的フレーム」の関係についていくつか考察を加えた。この「文化的フレーム」の導入により、医学、薬学、宗教学、文化人類学、考古学などの要素を含んだ、医療人文学的文学理論へのスムーズな展開が可能となった。

これらの成果は、国際カンファレンスでの発表や国際シンポジウムの共催を通じて、「医療人文学」という新たな研究手法・知見の提唱・普及を行うことができた。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

① 欧米の「Medical Humanities」に対する本研究の「医療人文学」の提示

医療人文学は、海外では「Medical Humanities」と呼称される。人文科学、社会科学、芸術、および医学教育と実践へのそれらの応用を含む比較的新しい医学の学際的な分野であり、日本では主に医学教育の分野を示すことが多い。海外における Medical Humanities に関する考え方は、例えば 2017 年の国際カンファレンスでは、医師(研究医)からのアプローチ、製薬業界や医療機器業界からのアプローチ、人類学からのアプローチ、人文学からのアプローチがあった。実に多様であり、新しい研究分野だと実感した。その中、2018 年の国際カンファレンスでジュリア・クリステヴァは、現代医学において「科学の客観性と文化の主観性の区別」はそれ自体が社会的事実として、その区別を疑問視した上で、Medical Humanities が、文化が持つ病理学的・治癒的な力を十分に認め、複雑な生物文化的事実として人体にアプローチすべきであると主張した。

この、クリステヴァによる問題提起から、改めて、医療表象文化に着目した本研究の視点を特定の病に向けることによって、文学作品を解釈するために用いる新たな思考の枠組みを構築できるのではないかという考えを強くした。そして、本研究が提唱する「医療人文学」は、医療という視点を文学の本質に近づけ、文学と医療の密接な関係についての理論的枠組みを構築することで、例えば『古事記』『源氏物語』や『万葉集』などの研究に対し、従来のテキストクリティックを乗り越える新たな知見や新研究への方向性を提示することができたのである。このことは、文学研究への貢献として非常に意義が大きい。

② 新型コロナウイルス感染症の影響により高まった、文学と医療の関係への関心

2020 年以降、新型コロナウイルス感染症の影響で、医療に対する社会的な関心が高まった。

本研究を開始した2016年当時、現代医療の世界では、西洋医療（対症療法）に対し、アジア医療（予防医療）が再評価されていた。しかし、2020年以降は、これまでのゆるやかな関心ではなく、未知の感染症への不安、そして健康・医療医薬品などの供給不安から、感染症との向き合い方や漢方の存在がメディアでも大きく取り上げられ、注目を浴びた。これにより、文学と医療の関係に着目した「医療人文学」という新たな視点は、本研究が意図する分野横断型の研究手法とは異なる捉え方もあるが、2016年当時よりもスタンダードなものとして国内外のカンファレンスで受け入れられた。

(3) 今後の展望

メディシンマンへのインタビューによって、文学と医療の連動性を意識し、特定の儀礼が、対応する病への現実的な治療を担っているのではないかという示唆を得たことは重要である。2017年のインタビュー中に本研究メンバーは非常に衝撃的な医療の現場に立ち会った。原因不明の高熱で倒れたメンバーの背にメディシンマンの手が触れた途端、痛みが消え去ったのである。その後、メンバーは回復し、病院でも炎症を起こした形跡はあるが異常はないと診断された。それは、伝統医療に見えつつも、科学的な療法として報告されたものに似ており（堀田晴美、「マイクロコーンによる疼痛緩和の神経性機序」、『Comprehensive Medicine』13-1、2014）、その医療を構成する場（装置）との関連性などについて、医療関係者と意見交換を行った。調査当時は、容体が瞬間的に好転した要因について医学的な結論は出せていないものの状況的な推測は可能であり、インタビューの言説理解に大いに役立った。

この治病体験をふまえての今後の展望として、文学、特にその儀礼部分に着目することで、AIという現代的課題に対する文学研究からの新たなアプローチができると考えている。

(4) 当初予期していなかった事象により得られた知見

当初予期していなかった事象として、2020年以降の新型コロナウイルス感染症の影響を挙げる。研究の最終年度であった2020年度に予定していた海外カンファレンスでの発表は、カンファレンスの中止によって頓挫し、予定していた対外的な活動は自動的に中止・縮小せざるを得なくなった。

しかし、新型コロナウイルス感染症に伴う研究期間の延長によって、本研究の目的である、人文学系アプローチと医学・薬学・生物学・生命科学系からのアプローチのクロスオーバー新領域研究の実現を目指した文理融合型の医療人文学研究を深化することができた。具体的には、研究分担者・研究協力者の中尾が、ナノライフサイエンス学の学びを深め、医学、薬学、生物学、生命科学の研究者に加え、物理学の研究者との交流を進めることにより、テキストと病症や医療的事象の関係について試論を行ったことである。そして、本研究メンバーは常に医学や生命科学などにおける最新情報をとらえつつ、薬学的知見を深め、それらを文学研究に昇華させることが可能となった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 毛利 美穂	4. 巻 56
2. 論文標題 ツバキのある風景：『万葉集』巻第十二・三一〇一番歌を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 関西大学東西学術研究所紀要	6. 最初と最後の頁 73-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32286/0002000109	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 毛利美穂	4. 巻 -
2. 論文標題 夏目漱石の文化的フレームからみた『草枕』の「風景表象」試論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東西学術研究所創立70周年記念論文集	6. 最初と最後の頁 459-479
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 毛利美穂	4. 巻 10
2. 論文標題 久高島の祈りの空間からみる水と潮の再生儀礼	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 祈りと祈りの場：東西学術研究所研究叢書	6. 最初と最後の頁 179-194
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 毛利美穂	4. 巻 51
2. 論文標題 聖泉と潮にみる祈りの空間 沖縄の御新下りと豊年祭を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東西学術研究所紀要	6. 最初と最後の頁 97-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 毛利美穂	4. 巻 9
2. 論文標題 レポートの質におけるリフレクションペーパーの役割 医療人文学レポートの分析を通して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 関西大学高等教育研究	6. 最初と最後の頁 49-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 毛利美穂	4. 巻 -
2. 論文標題 東アジアにおける医療表象文化と神話の考察	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東アジアと多文化	6. 最初と最後の頁 436-447
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 中尾瑞樹	4. 巻 -
2. 論文標題 医療人文学的アプローチによるホムチワケ皇子物語論	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東アジアと多文化	6. 最初と最後の頁 435
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計26件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 13件)

1. 発表者名 毛利美穂
2. 発表標題 黄泉国神話と植物
3. 学会等名 東西学術研究所研究例会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 毛利美穂
2. 発表標題 神話のなかの医療表象文化 エピカヅラから読み解く黄泉国の位置づけ
3. 学会等名 東アジア比較文化国際会議韓国大会（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中尾瑞樹
2. 発表標題 植物の和歌と草合・花合および本草学
3. 学会等名 東アジア比較文化国際会議韓国大会（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 毛利美穂
2. 発表標題 歌の風景のなかの草花
3. 学会等名 東西学術研究所研究例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 毛利美穂
2. 発表標題 医療人文学的研究からみる沖縄の祭儀における本草と病の相関性
3. 学会等名 琉球大学島嶼地域科学研究所個人型共同利用・公募型共同研究合同報告会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 毛利美穂
2. 発表標題 水辺の神話と医療表象文化 天岩戸神話における「長鳴鳥」の役割
3. 学会等名 東アジア比較文化国際会議中国大会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中尾瑞樹
2. 発表標題 『古事記』における「高天原」と道教系語彙
3. 学会等名 第15回東アジア比較文化国際会議中国大会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 毛利美穂
2. 発表標題 本草からみた聖なる風景
3. 学会等名 東西学術研究所研究例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 毛利美穂
2. 発表標題 植物と医療が形づくる風景表象
3. 学会等名 東西学術研究所研究例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 毛利美穂
2. 発表標題 テキストにみる薬草儀礼と儀礼の場
3. 学会等名 東アジア比較文化国際会議日本支部大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mohri Miho, Nakao Mizuki
2. 発表標題 Correlation between the vision and the environment in Ayahuasca ritual
3. 学会等名 IV International Conference on Medical Humanities: medicine in literature and cultural studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 毛利美穂
2. 発表標題 潮と水がつなぐ久高島の祈りの空間
3. 学会等名 東西学術研究所研究例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mohri Miho, Nakao Mizuki
2. 発表標題 A Study of Medical Humanities of Rituals and Medicinal Plants
3. 学会等名 Cultural Crossings of Care-an appeal to the medical humanities (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nakao Mizuki
2. 発表標題 The Unity Between Nature And Body as "Medical Text"
3. 学会等名 Cultural Crossings of Care-an appeal to the medical humanities (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 毛利美穂
2. 発表標題 ツバキの医療人文学的考察 『万葉集』巻第12・3101番歌を中心に
3. 学会等名 東アジア比較文化国際会議日本大会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中尾瑞樹
2. 発表標題 医書のなかの古典 医療人文学構築序説
3. 学会等名 東アジア比較文化国際会議日本大会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中尾瑞樹
2. 発表標題 ニューロテキスト論の可能性 文学研究の未来形 (文学 × ニューロサイエンス)
3. 学会等名 水門の会神戸例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 毛利美穂
2. 発表標題 本草からみる祭儀・儀礼
3. 学会等名 水門の会神戸例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 毛利美穂
2. 発表標題 祭儀と本草学 盆行事の医療人文学的考察
3. 学会等名 水門の会国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中尾瑞樹
2. 発表標題 『古事記』神話と儀礼の医療人文学 死者の世界と神話的薬理あるいは本草学
3. 学会等名 水門の会国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 毛利美穂
2. 発表標題 潮と水の儀礼 沖縄の聖水観念を中心に
3. 学会等名 東西学術研究所研究例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 毛利美穂
2. 発表標題 光源氏誕生と沖縄の言説からみるアマテラスの病と呪術
3. 学会等名 水門の会神戸例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 毛利美穂
2. 発表標題 東アジアにおける医療表象文化と神話の考察
3. 学会等名 東アジア比較文化国際会議韓国大会（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中尾瑞樹
2. 発表標題 医療人文学的アプローチによるホムチワケ皇子物語論
3. 学会等名 東アジア比較文化国際会議韓国大会（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中尾瑞樹
2. 発表標題 『古事記』黄泉国神話の医療人文学的考察
3. 学会等名 水門の会神戸例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 毛利美穂、中尾瑞樹
2. 発表標題 医療人文学的教育における夏目漱石『草枕』のブックレポートループリック活用
3. 学会等名 全国大学国語教育学会大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 毛利 美穂	4. 発行年 2023年
2. 出版社 万葉書房	5. 総ページ数 255
3. 書名 日本書紀の知と道教医療思想	

1. 著者名 中西進, 古田島洋介, 井上さやか, 曹咏梅, 西地貴子, 毛利美穂, 山田直巳, 王凱, 王晓平, 丹羽博之, 塩沢一平, 鈴木道代, 波戸岡旭, 佐藤信一, 新間一美, 安保博史, 塚越義幸, 渡邊晴夫, 彭佳紅, 朴美子, 大谷歩, 山口敦史, 辰巳正明	4. 発行年 2017年
2. 出版社 新典社	5. 総ページ数 399
3. 書名 東アジアの知：文化研究の軌跡と展望	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>・Mohri Miho, Nakao Mizuki, 'Correlation between the vision and the environment in Ayahuasca ritual', "International Conference on Medical Humanities", 2019, p19.</p> <p>・Mohri Miho, Nakao Mizuki, 'A Study of Medical Humanities of Rituals and Medicinal Plants', "Cultural Crossings of Care", 2018, pp.40-41.</p> <p>・Nakao Mizuki, 'The Unity Between Nature And Body as "Medical Text"', "Cultural Crossings of Care", 2018, p12.</p> <p>ウェブサイト</p> <p>・関西大学医療人文学プロジェクト・リサーチセンター https://medicalhumanities.fc2.page/</p> <p>・関西大学医療人文学プロジェクト http://medicalhuman.wp.xdomain.jp/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	中尾 瑞樹 (Nakao Mizuki) (60773794)	関西大学・教育開発支援センター・研究員 (34416)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	中尾 瑞樹 (Nakao Mizuki)		2022年度以降、東西学術研究所科研費研究員を併任

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関